

昭和大学附属烏山病院だより

あおぞら

〔発行責任者〕 病 院 長 岩波 明
〔編集責任者〕 広報委員長 常岡 俊昭
〔住所〕 〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11
〔電話〕 03-3300-5231(代表)

第 1 9 4 号

[2 0 2 3 年 1 0 月 3 1 日 発]

令和 5 年度院内学会

I. 『若年層プログラム「あつまれ！からすやまの森」活動報告』

作業療法士 千葉 美並

今年度、作業療法室では新たに複数の外来プログラムを立ち上げました。今回はそのうちの一つである、若年層を対象としたプログラムについて発表させていただきました。

【あつまれ！からすやまの森】

由来：多様性・集まれる場所・居場所・楽しめる場所という意味を込めてメンバーが命名しました。

対象と目的：10代から20代の方で疾患は問わず、集団で認められる経験が必要な方。

日時：毎週火曜日 9：30-11：30

場所：セミナー室にて

内容としては、前半は色カルタ。後半はボードゲームを使用しています。

前半の色カルタは、テーマに対して100色のカードの中から一色を選択。その理由を言語化して他者へ伝えていくというアクティビティです。時には自己理解を促すテーマも取り入れています。

後半のボードゲームはメンバー同士のつながりを感じられたり、柔軟なアイデアの発揮ができたりするようなものを選択しています。



参加メンバーからは、「話すことに苦手さがなくなった」「同じ年代でも様々な考え方があると分かった」「参加しているひとの思いや考え方を知れるのがうれしい」と言った感想を聞くことができました。

スタッフも学校の昼休み、放課後のような雰囲気の中で一緒に楽しく運営しています。

発表を通じ、院内の皆様へプログラムについて知っていただける良い機会となったことに感謝いたします。

Ⅱ. 『精神科救急病棟の作業療法処方から作業療法士 佐藤 範明』

今回は「精神科救急病棟の作業療法処方の特徴から得られた作業療法へのニーズ」を発表させていただきました。

従来、作業療法は回復期や、維持期に関わることが多かったが、近年は精神科救急病棟に従事する作業療法士は増加しています。精神科救急病棟での作業療法の必要性や需要は高まっていると推察されるが、ニーズを調査した先行研究が見当たらなかったため、今回のテーマを取り上げました。結果として、617名のデータから精神科救急病棟における作業療法士のニーズは「自己効力感・自信・意欲・希望の回復」と「生活リズム・習慣の構築」、「趣味・余暇活動の充実」が期待されていることが明らかとなりました。



精神科救急病棟は非自発性入院が多く、行動制限が行われています。限局した施設内で、作業療法では興味や関心・価値に基づいた活動を通じ日課・習慣の構築を元に、余暇活動を介した成功的経験、集団内で他者との関係性構築・受容される経験等を通じ、回復の支援・促進が求められていると推察できました。

今回の研究成果を元に、精神科救急病棟における作業療法の発展・対象者への還元に寄与できるよう努めます。この度は、貴重な発表の機会をいただきありがとうございます。

今回の研究成果を元に、精神科救急病棟における作業療法の発展・対象者への還元に寄与できるよう努めます。この度は、貴重な発表の機会をいただきありがとうございます。

Ⅲ. 『烏山病院における精神医医療実習の効果』 薬剤師 細川 琴美

精神医療実習は昭和大学薬学部独自の臨床実習であり、対象学年の全薬学生が必修で精神医療を学びます。この実習は令和2年1月から始まり、新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン実習になることがありましたが、今年で4年目になります。実習の目的は、①精神科医療の現場を知ること②患者との触れ合いを通じて、精神疾患を理解すること③クリニカルクラークシップの実践の3点です。初日は、精神科の歴史や精神保健福祉法（入院形態や身体拘束など）、精神科病院のリハビリテーションプログラム、ECT、精神科医療における薬剤師の役割などを講義形式で学び、2日目は、病棟見学と担当患者さんとのコミュニケーションを行って服薬アドヒアランスの評価を実施します。そして、医師と看護師にフィードバックをして、情報共有の必要性を学びます。

実習を終えた学生のアンケート結果を見ると、「精神科医療への理解が深まった」「精神医療実習は必要である」「精神科への就職が将来の選択肢のひとつになった」などの肯定的な回答や、患者の気持ちに寄り添うことの大切さを学ぶことができた等の意見が多く寄せられ、精神科医療や精神疾患に対する学生の理解度が高まったことが伺えました。

精神医療実習は精神科医療の理解を深め、印象を変えるだけでなく、学生の就職先候補に精神科が選択される可能性をもたらすことがわかりました。精神疾患は5大疾病の1つであるものの、昭和大学以外の薬学部では、本学のように精神科単科病院の現場を体験する機会は少ないです。将来的に多くの大学の薬学生が精神科医療の臨床実習を経験することができたら良いと考えます。

令和5年度秋季公開講座・

東京都精神科医療地域連携事業公開講演会について

昨年度に引き続き、今年も令和5年度秋季公開講座・東京都精神科医療地域連携事業講演会を開催いたします。2023年11月25日(土)当院入院棟1階食堂ホールにて、13時30分より水野作業療法士と常岡講師より下記添付のテーマについて講演していただきます。

また、公開講座終了後14時30分より、認定NPO法人施設長 中村 努 様、漫画家 町田 粥 様・編集者 神成 明音 様、岩手医科大学附属病院 児童精神科教授 八木 淳子 様による公開講演会も行われます。

参加には事前登録が必要となります。ご希望の方は添付のQRコードよりグーグルフォームにてお申込みいただくか、ファックスもしくはハガキにお名前・ご住所・電話番号・メールアドレスをご記入の上、以下の宛先までお送りください。

【申し込み先】〒157-8577 東京都世田谷区北烏山 6-11-11

昭和大学附属烏山病院事務課 公開講座担当係 TEL 03-3300-5231

FAX 03-3300-9710



申込用QRコード

令和5年度 昭和大学附属 烏山病院公開講座

当院では、大学の研究や診療の成果を地域の皆さんへ還元すると共に、地域との交流を図ることを目的に毎年公開講座を開催しております。

**演題①：『発達障害専門デイケアの取り組みとその効果
～一人ひとりのゴールを目指した支援～』**
水野 健 作業療法士 昭和大学附属烏山病院

演題②：『発達障害と依存症』
常岡 俊昭 医師 昭和大学精神医学講座

日 時：令和5年11月25日(土)
13時30分～14時30分(開場13時00分)

会 場：烏山病院 入院棟1F 食堂ホール または Zoomによるオンライン

定 員：食堂ホール 80名 ※いずれも先着順
オンライン 100名 受講料無料

申 込：QRコードもしくは下記 URL より
お申し込みいただけます。
(<https://forms.gle/UwpuotWz8Pzn3AW19>)

申込用QRコード

『FAX』もしくは『はがき』にてお申し込みの方は、名前・住所・電話番号・メールアドレス・希望参加方法(対面かオンライン)をご記入の上、以下の宛先までお送りください。

〔申込み先〕〒157-8577 世田谷区北烏山 6-11-11
TEL 03-3300-5231 FAX 03-3300-9710
昭和大学附属烏山病院事務課公開講座担当係

* 公開講座終了後同会場において、令和5年度東京都精神科医療地域連携事業公開講演会『健康の視点から見たギャンブルなど危険な遊び方への向き合い方』『発達障害なわたしたち』『児童思春期の発達障害』も開催されます。(14時30分～17時15分)受講料は無料です。公開講座に引き続き公開講演会に参加される場合その旨を記入くださいますよう、お願い申し上げます。(別途申し込みは不要です。)

2023年度 昭和大学附属烏山病院 公開講座
東京都精神科医療地域連携事業 公開講演会

日時 2023年11月25日(土)
13:30～17:30
当日は、ハイブリッド形式の運営を予定しております。
ご来場、またはZoomのWeb配信にてご視聴ください。

会場 昭和大学附属烏山病院 入院棟1F食堂ホール
〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11

昭和大学附属烏山病院
公開講座

13:30～14:30 ①『発達障害専門デイケアの取り組みとその効果』
～一人ひとりのゴールを目指した支援～
水野 健 昭和大学附属烏山病院 作業療法士

②『発達障害と依存症』
常岡 俊昭 昭和大学附属烏山病院 准教授

東京都精神科医療地域連携事業
公開講演会

14:30～15:15 ①『健康の視点から見た
ギャンブルなど危険な遊び方への向き合い方』
中村 努 認定NPO法人ワンダーポート 施設長

15:15～15:30 休憩

15:30～17:30 ②『発達障害なわたしたち』
町田 粥 漫画家 神成 明音 編集者

③『思春期の発達障害』
八木 淳子 岩手医科大学附属病院 児童精神科教授

* 参加登録は、事前にファックスまたは手紙で申し込みください。当日の受付は、13:00開始です。

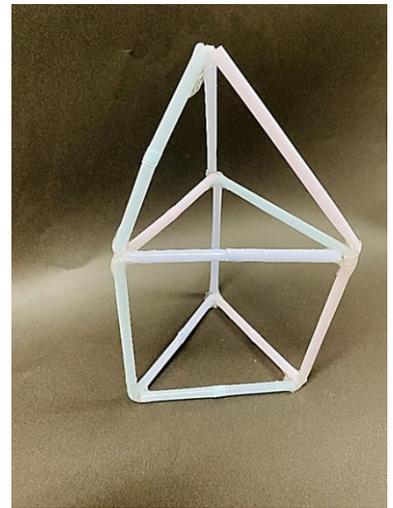
申し込み先 / 昭和大学附属烏山病院 事務課 TEL: 03-3300-5231 FAX: 03-3300-1710

デイケア活動 認知行動療法プログラム

Y・Sさん

今回、紹介するのは私が参加している認知行動療法で、月曜日午前に行われているプログラムです。8月のテーマはコミュニケーションワークで、特に印象に残っているのはストロータワーです。ルールは20本のストローとテープ、はさみを使って、4人前後のチームで協力して高さを競うゲームです。チームで意見を出し合い、製作したり、サポートに回ったり、役割分担しながら、製作していきました。特に印象に残ったチームは3本のストローを土台にして絶妙なバランスで立てて、ストローの継ぎ目に切ったストローを芯にして、継ぎ目の補強をしていたことでした。

私はあまり積極的には発言はできませんでしたが、その分、ストロータワーが倒れないように支えたり、ストローの接合部をテープで補強したりして、製作のサポートをしました。また、チームのメンバーが発言しやすい環境作り等をしてくれたおかげで居心地のいいチームでした。そのため、プログラム終了後もメンバーがなかなか解散せず、話し込んでいました。今後、このようなプログラムに参加した際には、もっと積極的に発言していきたいです。



総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～金曜日・8時30分～17時
土曜日 8時30分～13時

電話：月曜日～金曜日 03-3300-5329
土曜日 03-3300-5231

◎初診受付：月曜日～金曜日・8時30分～14時
土曜日 8時30分～12時

◎休診日：日祭日・本学創立記念日・年末年始

《9月》 入院(前月) 外来(前月)

◆延患者数 8,554(8,741) 6,223(6,498)

◇一日平均患者数 285.1(282.0) 259.3(249.9)

◆診療実日数 30(31) 24(26)

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。

こちら当院のホームページのQRコードとなります。ぜひご覧ください。



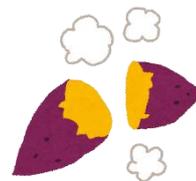
【編集後記】

真夏日が80日を超えたという今年の夏、いつまでこんなに暑いのかともううんざりでしたが、暑さ寒さも彼岸までとはよく言ったもので、ようやく涼しくなってきましたね。

上を見上げると秋の雲、空ですね。

夏の暑さによる疲れもあいまって「疲れがとれない」「体が重い」などの不調を感じている人も多いのでは。

食欲の秋、美味しい物を食べて心身を休息させましょう。



(広報委員 中川)